

第5学年 外国語学習実践

○学年の取り組み

① 見通しと振り返り

児童が見通しをもって学習できるように黒板にパターン化された授業の流れを掲示した。今、何をしていた次はどんな活動をするのか児童が見通せるようにした。また、その時間の学習のポイントを明確にし、学習内容についてしっかりと振り返りを行うようにした。GIGA 端末を使って振り返りを行ったので、友達の振り返りの内容を共有することができた。



② ゴールの明確化

単元の初めに、誰に何をどのように伝えるのか（伝え合うのか）についてゴールを示した。GIGA のクラスルームにALTと担任の会話をしている動画をあげ、いつでも自由に見られるようにした。言語活動の場面や状況を具体的に示して、有意義な言語活動を設定するように努めた。

③ 個別最適化の学び

みんなで学習した後、自分の伝えたいことを相手に伝えるために個別の準備時間を設けるようにした。デジタル教科書で分からない単語の発音や会話文を繰り返し聞いて、個別に練習することができるようにした。イヤホンを用いることで集中して取り組む姿が見られた。

○子どもの姿（成果と課題）

高学年は、「進んでお互いの思いや考えを伝え合い、分かり合おうとする子」の育成を指して日々の授業に取り組んできた。自分のことを知ってほしい、友達のことを知りたいという思いがあり、英語でも自分のことを伝えてみようとする児童が少しずつ増え、英語でのコミュニケーションを楽しんでいた。友達の英語を聞いて、「That's right.」や「Me,too.」などのリアクションを取ったり、照れながらもジェスチャーをつけて話したりする姿も見られるようになってきた。毎時間、学習の初めにチャントや歌に触れることを通して、英語の表現に慣れ親しみ、そのままのリズムや発音で英文を覚えることができた。練習を重ねるなかで、覚えた表現の意味が繋がり理解できるようになると、自分の言いたい単語に入れ替えて、実際の会話で使えるようになった児童もいた。

一方で、相手意識が希薄で、ただ教師の英語を繰り返しているだけになっている児童もいた。自信がないとやらない児童や、完璧を求めてしまい失敗を恐れてしまう児童がいるので、もっと十分に音声に慣れ親しむ活動を丁寧に行っていききたい。準備の手順を示して、児童が自信をもって一步踏み出し、取り組んでみたいと思える言語活動を模索していききたい。GIGA 端末を使って、自分に合った練習方法を見つけられる児童も増えてきたが、GIGA 端末の準備や英語の表現を見つけるのに時間かかったり、英語の学習と関係ないことに興味が反れてしまったりする児童もいる。今後も、GIGA 端末の有効な活用方法を考えていく必要がある。